

第2次都立動物園マスタープラン
井の頭自然文化園 推進計画

令和5年3月
東京都建設局

目次

1. 推進計画について

- (1) 推進計画策定の考え方
- (2) 計画の見直しについて

2. 井の頭自然文化園について

3. 各園基本方針

- (1) 園の取組の方向
- (2) 目指す姿ごとの方針

4. 飼育展示計画

- (1) 飼育展示計画とは
- (2) 飼育展示計画におけるエリア区分と飼育動物の分類
 - 1) 飼育展示計画におけるエリア区分の設定
 - 2) 飼育動物の分類
- (3) 園の飼育展示コンセプト
- (4) エリアごとの計画 ～展示コンセプト・飼育動物・重点的取組～

5. 教育普及計画

- (1) 教育普及計画とは
- (2) 教育普及テーマについて
- (3) 園の教育普及コンセプト
- (4) 教育普及テーマごとの計画 ～取組計画・主な実施項目～

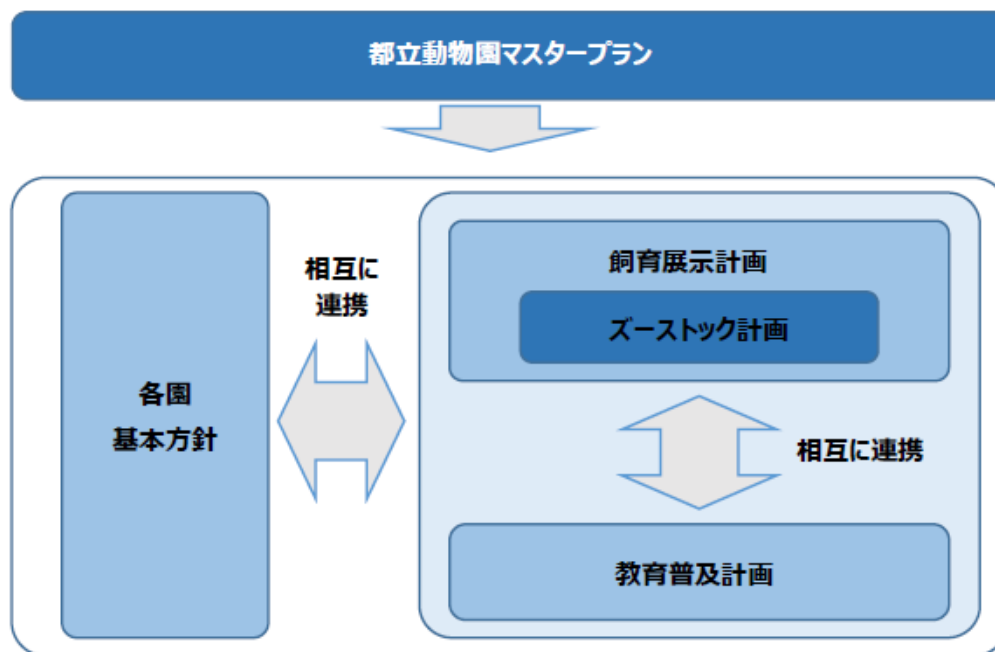
1. 推進計画について

(1) 推進計画策定の考え方

都は「動物園・水族館の持つ4つの機能を強化していくこと」と「持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)の達成に寄与すること」という2つの基本的な考え方を踏まえ、令和2年11月に都立動物園の目指す姿と取組の方向性を示した第2次都立動物園マスタープラン(以下、「マスタープラン」という)を策定しました。

マスタープランでは、その下位計画として、各園の取組の方向性や、具体的な内容を取りまとめた「各園基本方針」、「飼育展示計画」、「教育普及計画」を策定し、都立動物園の4つの目指す姿(魅せる・伝える・守る・極める)の実現に向けた取組を進めることとしています。

この度、マスタープラン 第4章「各園の目指す姿と取組の方向」を踏まえ、第2次計画期間(令和3～12年度)中の、井の頭自然文化園の下位計画を取りまとめ、「井の頭自然文化園 推進計画」を策定しました。今後、本推進計画の取組を着実に推進していくことで、井の頭自然文化園におけるマスタープランの目指す姿を実現するとともに、野生動物の保全と環境への理解を促し、人と動物がともに生きていくことのできる地球環境を守り、未来に引き継いでいきます。



マスタープランにおける下位計画(推進計画)の位置づけ ※マスタープラン p.17 抜粋

※ズーストック計画：平成30年10月策定。124種を対象に、希少種の保全や、環境学習の推進、生息域内保全への貢献を図る計画

(2) 計画の見直しについて

本計画は、社会情勢や、国内外の動物管理計画などの変化を踏まえ、中間年度を目途に見直しを検討します。

2. 井の頭自然文化園について

井の頭自然文化園は、行楽の間に自然科学知識の普及向上に寄与することを目的として、昭和17(1942)年に開園しました。動物園や資料館、彫刻館のある「動物園(本園)」と、水生物館や水鳥の展示がある「水生物園(分園)」に分かれています。

我々の身近に暮らす日本の野生動物の飼育展示と、子どもたちにも親しみやすい動物とのふれあいを通じた体験活動を重視しています。武蔵野の自然や彫刻館等の文化施設を活用した取組も進めています。

3. 各園基本方針

(1) 園の取組の方向

マスタープランで定めた井の頭自然文化園の目指す姿（マスタープラン p.118 参照）を踏まえ、園の今後の取組に対する考え方を「園の取組の方向」として、以下のとおり定めました。

- 私たちの身近に暮らす動物たちへの理解を深めることが、野生動物を守る取組への第一歩となることから、日本産動物の飼育に積極的に取り組み、生息域内との連携も図ります。
- 「入門動物園」として、最初に子どもたちが訪れやすい、気軽な雰囲気動物園をつくります。
- 「モルモットのふれあい」といった、直接的なふれあいだけでなく、動物たちとの距離の近さを生かした展示や教育プログラムなどの「多様なふれあい体験」により、動物と人との関係性を豊かにしていきます。
- 井の頭池や玉川上水に隣接し、都会の中でありながら、様々な環境を有している点を生かし、武蔵野の自然を生かした取組を進めます。
- 彫刻園などの、園内の文化施設を最大限に生かし、多様な来園者層の期待に応えます。

(2) 目指す姿ごとの方針

「園の取組の方向」に基づき、都立動物園の目指す姿（マスタープラン p.15 参照）ごとの視点から整理した、より具体的な方針を、「目指す姿ごとの方針」として定めました。ハード面とソフト面の両方の視点を踏まえることで、目指す姿の効果的な実現を目指します。

魅 せ る

- 「リスの小径」や「いきもの広場」のように、来園者が生き物と同じ環境に身を置き、生き物と共に生きていることを実感できる展示環境を整備し、できるだけ生き物と隔たりを感じさせない展示環境を目指します。
- 資料館や水生物館での質の高い特別展や彫刻館での企画展等の開催により、洗練された文化力を広域に発信し、魅力アップを図ります。
- 無料休憩所の整備、入口でのバス転回を可能にする正門機能の充実など、多様な来園者が快適に過ごせる空間を創造するとともに、多角的なターゲット層に向けた誘致策を展開し、レクリエーション施設としての機能強化も図り、ユーザー拡大を目指します。
- 開園当初から育まれているイヌシデやマツなど武蔵野の樹木を適正に管理し、動物だけでなく「いきもの」を守り、伝えていきます。

伝 え る

- 「モルモットのふれあいコーナー」のように直接ふれあう体験だけでなく、生き物を「近い存在」として感じる、大切に思うという「心のふれあい」も重視した体験を提供できるよう、環境やプログラムの充実を図ります。
- 餌やり及び動物用の遊具づくりや設置などの飼育体験をはじめとした、多様なふれあいが体験できる親しみを感じる施設を目指します。
- 武蔵野の自然環境や人の営みも含めて生態系として捉え、命の大切さを学べる環境プログラムを整備し、環境学習の入門施設として機能強化を図ります。
- 科学だけでなく様々な観点から、武蔵野の自然や生き物等を取り上げ、多くの人々が生態系をより身近に感じることができるよう、文化面も重視した多面的な事業展開を図ります。

守 る

- 身近な存在である日本産の動物だけでなく、希少な野生動物の飼育展示にも取り組んでいきます。子どもになじみの深い物語に出てくる生き物や武蔵野の森や水辺に生息する生き物も「身近な生き物」として飼育展示を図り、また、これらの繁殖に積極的に取り組み、持続可能な飼育展示を目指します。
- ハズバンドリートレーニングや環境エンリッチメント等を飼育管理に導入するとともに、動物の生態にあった施設改修を進めて、アニマルウェルフェア[※]（動物福祉）（以下、「アニマルウェルフェア」という）の向上を図ります。

極 め る

- 飼育技術の蓄積により、希少種の繁殖などの生息域内外保全の取組に貢献していきます。
- 生息域内との連携により得られた知見を展示づくりや情報発信に生かし、生き物への理解を促していきます。

※ 一般に「個体が幸せであると主観的に感じる状態」¹とされているが、動物の主観的状态を理解するのは困難であるため、本計画では「その動物にとって、科学的に妥当な飼育管理」と定義する。

¹ Hosey, G., Melfi, V. and Pankhurst, S. (村田浩一, 楠田哲士監訳, 2011): 動物園学, 221. 文永堂出版, 東京

4. 飼育展示計画

(1) 飼育展示計画とは

「目指す姿ごとの方針」のうち、主に「守る」、「極める」で定めた方針に基づき、「何のために、その種を飼育し、展示し、どのように活用し、何を伝えていくのか」を定めたものが飼育展示計画です。園のエリア区分や動物舎ごとに、展示コンセプトを設定し、それに基づいてどの種を飼育し、主にどのような取組を重点的に行っていくのかを記載しています。

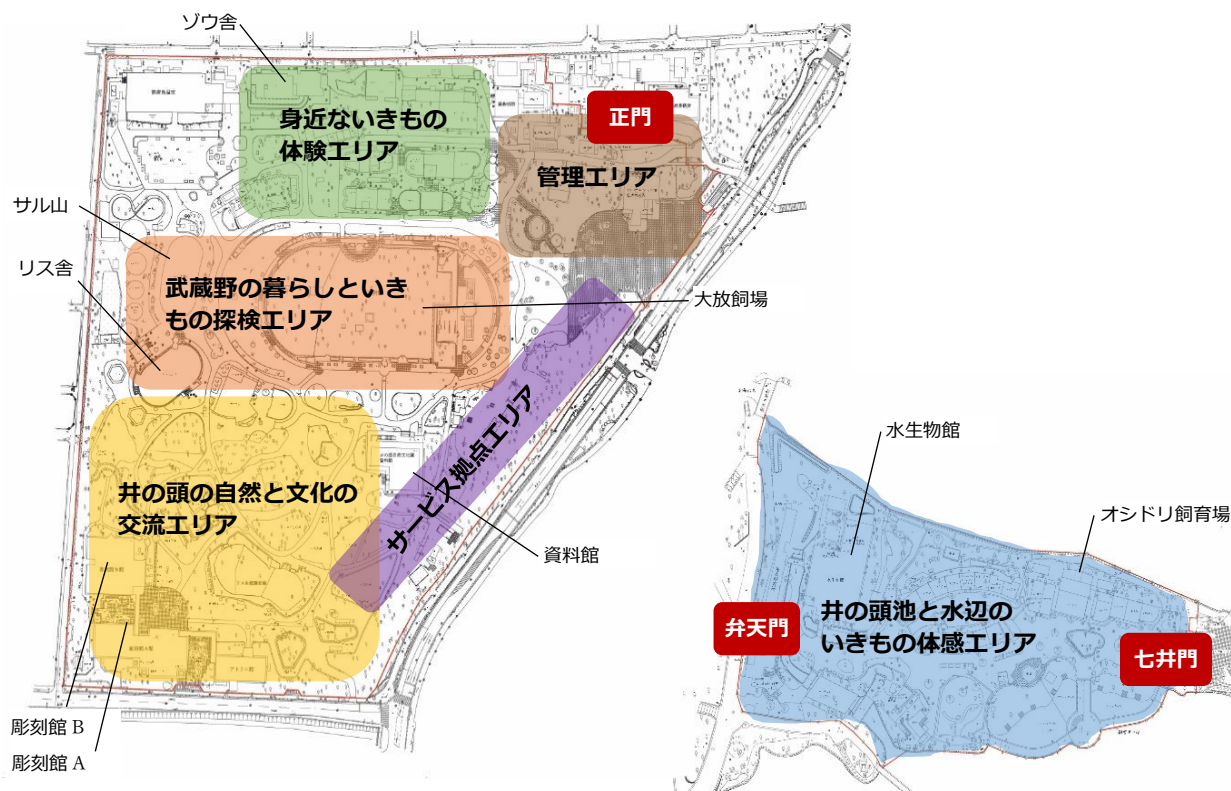
飼育展示する動物を、その意義や必要性に応じて整理し、それに沿った取組を推進することで、限られた施設や資源を有効に活用し、持続可能な飼育展示や野生動物保全への貢献、教育普及効果の向上を目指します。

(2) 飼育展示計画におけるエリア区分と飼育動物の分類

1) 飼育展示計画におけるエリア区分の設定

飼育展示計画におけるエリア区分は、マスタープランに記載されたエリア区分を基本として設定しています。なお、展示コンセプトや飼育動物に応じて一部、小区分を設定しています。

エリア区分及び小区分



場所	エリア区分	小区分
本園	身近ないきもの体験エリア	
	武蔵野の暮らしといきもの探検エリア	
	サービス拠点エリア	
	井の頭の自然と文化の交流エリア※	
	管理エリア ※	
分園	井の頭池と水辺のいきもの体感エリア	サギ舎、ツル舎、オシドリ舎
		水生物館

※井の頭の自然と文化の交流エリア及び管理エリア内には、動物飼育施設なし

2) 飼育動物の分類

エリア区分や動物舎ごとの展示コンセプトを踏まえ、全ての飼育動物について、長期的な視点で飼育動物ごとに保全の優先性、展示効果、教育普及効果、アニマルウェルフェアの確保、搬出入の見通しといった観点から、その意義や必要性を検討し、以下の4つのカテゴリーに分類しました。

なお、野生での生息状況や飼育管理技術の向上など状況の変化により、必要に応じて飼育動物の分類を変更していきます。

- ・優先種：優先的に保全・繁殖に取り組む必要性、または展示・教育普及上の意義が高く、特に積極的に飼育展示に取り組むべき種
- ・維持種：単性飼育や必要に応じた繁殖など、それぞれの種の状況に即した管理を行いながら、長期的に継続して飼育展示を行う必要性がある種
- ・検討種：新規導入を検討する種又は飼育展示の終了も含め検討を要する種
 - ①展示効果や保全、教育普及上の意義などが見込まれ、今後新たな導入について検討する種
 - ②搬出入の見通しや、アニマルウェルフェアの確保などの観点から、今後の継続的な飼育展示について終了することも含め検討する必要がある種
- ・断念種：搬出入の見通しや、アニマルウェルフェアの確保などの観点から今後、継続して個体を維持していくことが困難であり、順次飼育展示を終了※していく種

※ 将来的な繁殖可能性や飼育スペースの確保、個体の年齢など様々な要因を考慮し、園での終生飼育や、他施設への搬出など、それぞれの個体に適した方法を検討した上で、それに応じた適切な時期に飼育展示を終了していく。

(3) 園の飼育展示コンセプト

井の頭自然文化園における飼育展示の考え方を、以下のとおり「園の飼育展示コンセプト」として定めます。

- 誰もが親しみやすい動物の展示や環境学習プログラムを通し、人と動物との関わりや、生命の尊さを知ることができるきっかけを創出していきます。
 - 武蔵野の自然に生息する生き物の飼育展示や繁殖に取組み、様々な環境に暮らす動物と人とのつながりを感じさせる展示を目指します。
 - 日本に生息する動物を中心に、身近な動物に対する理解を深められる展示を目指すとともに、生息域内と連携を図り、保全に取り組んでいきます。
-

(4) エリア区分ごとの計画 ～展示コンセプト・飼育動物・重点的取組～

【身近ないきもの体験エリア】

(主な施設)

ヤマネコ舎、モルモット舎、小獣舎、家畜舎、ヤマアラシ舎、フェネック舎、シカ舎、ペンギン池

▶飼育展示コンセプト

- 親しみやすい動物や身近に暮らす日本産動物の繁殖推進および保全の、また人の生活に関係の深い家畜などの展示やふれあいなどの環境学習プログラムの展開
- 生命の尊さを感じ、動物の能力や習性、人と動物との関わりを知ることができる場を創出する

▶主な飼育動物

優先種：ツシマヤマネコ、アムールヤマネコ、テンジクネズミ

維持種：アナグマ、キツネ、タヌキ、カピバラ、ミーアキャット、フェネック、カモシカ、ペンギン類など

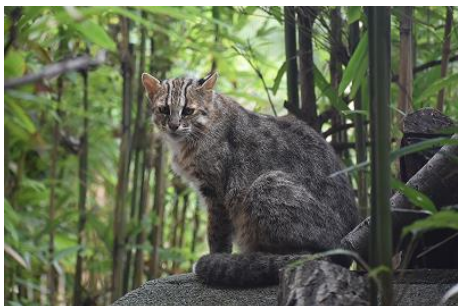
検討種：①なし

②ムササビ、ノウサギ、アオダイショウ、ソデグロバト

断念種：なし

▶重点的取組

- ツシマヤマネコの保護増殖事業に基づいた関係機関との協働による、人工繁殖推進と技術継承
- アムールヤマネコのズーストック計画に基づいた適切な飼育個体数調整と繁殖管理
- テンジクネズミ類のアニマルウェルフェアに配慮した適切な飼育環境の確保と、ボランティア等と協力したふれあいプログラムの実施



保護増殖事業対象種のツシマヤマネコ



ニホンカモシカの親子

【武蔵野の暮らしといきもの探検エリア】

(主な施設)

リスの小径・ニホンリス繁殖施設・ハビタット・野鳥の森・ヤマドリ舎・サル山

▶飼育展示コンセプト

- 大放飼場を有効活用した日本産動物の飼育を通して、人里から里山を経て奥山まで、人と共存あるいは棲み分けしてきた野生動物の暮らしぶりや生息環境を探索しながら、野生動物の姿や息づかいを感じる展示
- 人と動物、自然環境とのつながりを感じ、考える場を提供する

▶主な飼育動物

優先種：ニホンリス

維持種：ニホンジカ、イノシシ、ヤマドリ、アカガシラカラスバトほか日本の野鳥、カタマイマイ

検討種：①サル類（アカゲザル後継種）、キツネあるいはタヌキ
②タンチョウほかツル類

断念種：アカゲザル

▶重点的取組

- ニホンリスのブーストック計画に基づいた繁殖推進
- イノシシ・ニホンジカのハズバンダリートレーニングの実施など飼育管理環境の向上
- 大放飼場の西側エリアにおける里山原風景の再現



ターゲット棒で動物を誘導するトレーニング



来園者が施設内を通り抜けできるリスの小径

【サービス拠点エリア】

(主な施設)

資料館

▶飼育展示コンセプト

- 入門動物園として、日本産の野ネズミの展示を通じて、ネズミ類の多様性、生態の違い、動物の進化などを実感し、域内保全に貢献できる展示
- 資料館の特設展コーナーや絵本コーナーなどの環境学習機能の一層の強化を図り、園全体の環境学習の拠点とする

▶主な飼育動物

優先種：アマミトゲネズミ

維持種：カヤネズミほか日本の野ネズミ

検討種：①なし

②なし

断念種：ヨツユビハリネズミ

▶重点的取組

- アマミトゲネズミの JAZA の種管理計画やブーストック計画に基づいた取組の推進
- アマミトゲネズミの保全活動を知るきっかけの提供



アマミトゲネズミの飼育



資料館を活用したツシマヤマネコの普及活動

【井の頭池と水辺のいきもの体感エリア】

▶サギ舎、ツル舎、オシドリ舎

(主な施設)

オシドリ舎・サギ舎・カモ舎・ツル舎

▶飼育展示コンセプト

○井の頭池に飛来するカモ類をはじめ、水辺に生息するガンカモ類、サギ類を中心とした展示により、身近な自然環境の保全について伝える機会を提供する

▶主な飼育動物

優先種：オシドリ

維持種：クロツラヘラサギ、カリガネほかガンカモ類、タンチョウほかツル類、コウノトリ

検討種：①なし

②なし

断念種：なし

▶重点的取組

- オシドリのズーストック計画に基づいた繁殖推進
- 国内のガンカモ類飼育園館と連携し、入手困難なガンカモ類の繁殖推進
- 水鳥類における鳥インフルエンザ等感染症対策の改善



クロツラヘラサギ



井の頭池に飛来するカモ類の展示

▶水生物館

(主な施設)

水生物館

▶飼育展示コンセプト

- 日本の河川や湖沼に生息するさまざまな動植物を飼育下で維持し、井の頭池の環境をイメージさせる展示を創るとともに、水辺と動物の関係性を伝える
- 井の頭池から関東水系の生き物と環境、人の生活との関わりをテーマとして、人と動物、そして自然環境とのつながりを感じ、考える場を提供する

▶主な飼育動物

優先種：アカハライモリ、ミヤコタナゴ、ムサシトミヨ、ミナミメダカ

維持種：オオサンショウウオ、トウキョウサンショウウオ、トウキョウダルマガエル、ニホンイシガメほか両生爬虫類
ゲンゴロウほか水生昆虫、シナイモツゴほか日本産の淡水魚、イノカシラフラスコモ、ナガエミクリほか
井の頭池産水草類

検討種：①なし

②なし

断念種：なし

▶重点的取組

- JAZA および他自治体とのネットワークを生かした、日本産の淡水魚・両生爬虫類・水生昆虫の飼育下繁殖計画の推進と個体群維持
- 東京都や水草研究者との連携による井の頭池の水草類の保全および健全な水辺環境についての情報発信



天然記念物に指定されているミヤコタナゴ



井の頭池に復活したイノカシラフラスコモ

本計画に該当する確認指標・具体的な確認項目及び目標値一覧

	確認指標	具体的な確認項目	10年目目標値 (令和12年度)
取組 1	来園者の視点で常設展示や施設の魅力が向上した	展示改善の実施件数	110件 ^{※1}
	魅力的なプログラム、イベントが開催されている	利用者アンケートの調査結果	3.3
取組 2	多くの来園者が魅力を感じて訪れる施設になっている	年間来園者数	700万人 (4園合計 ^{※2})
	多様な来園者を呼び込む取組がなされている	Twitter投稿件数	— ^{※3}
取組 3	誰もが快適に観覧できる環境を提供している	快適環境に向けた園内施設の維持管理実施件数	700件 ^{※1}
	来園者が満足している	利用者アンケートの調査結果	3.6
取組 5	多くの方に積極的に都立動物園や野生動物の情報を発信している	東京ズーネット投稿件数	100件
	園内外でICTなどの先端技術を活用した情報発信がされている	動画新規配信件数（ズーネットBB、YouTubeチャンネル）	1800件 ^{※1} (4園合計 ^{※2})
取組 6	飼育職員による情報発信が強化されている	キーバーストークの実施件数	70件
	動物園を案内するガイドツアーのプログラムが充実している	ガイドツアーの実施件数	110件
取組 7	動物をテーマにした特設展・企画展が充実している	特設展・企画展の実施件数	10件
	東京都(伊豆諸島・小笠原諸島含む)に分布する野生動物に関する情報発信が強化されている	東京都に分布する野生動物植物に関するズーネット投稿件数	110件 ^{※1} (4園合計 ^{※2})
取組 8	園外のフィールドにおいて動物の魅力を伝えるプログラムを実施し、身近な野生動物への理解を促している	フィールドプログラムの実施件数	4件
	来園が困難な方などへの環境学習プログラムが充実している	団体プログラムの実施件数及び葛西臨海水族園の移動水族館の実施回数	15件
取組10	ボランティアの育成が進んでいる	ボランティア対象の研修会の実施件数	4件
	ボランティアとの協働による教育活動が行われている	ボランティアによる教育活動の実施件数	180件
取組11	希少種の飼育管理を適正に行い、繁殖が推進されている	国内外血統登録対象の繁殖種数	11種 ^{※1}
	多様な種を飼育し、飼育個体の情報を適正に管理している	国内外血統登録対象の飼育種数	23種
取組12	計画的な飼育展示に向けた取組が進んでいる	飼育展示計画に基づいた飼育種数	45種
	種の保存のために繁殖貸借(フリーディングローン)が行われている	繁殖貸借(フリーディングローンの実施件数)及び保護増殖計画における動物受入実施件数	10件
取組13	ズーストック種の繁殖が進んでいる	ズーストック計画で計画どおり繁殖に成功した種数	124種 ^{※1}
	ズーストック計画に基づき対象種が適切に維持管理されている	ズーストック種における「飼育繁殖」「保全情報」「普及啓発」の分野において、適切に推進されている取組数	378 ^{※1}
取組14	管理技術の向上により、動物を安全かつ健康的に飼育する環境が整っている	ハズバンクアトリートレーニングの到達度	— ^{※3}
	飼育動物の選択肢を増やし、正常な行動を引き出し、健康的に飼育する取組が進んでいる	展示施設におけるエンリッチメントの取組件数	— ^{※3}
取組15	環境省の保護増殖事業計画対象種の保全に貢献している	種の保存法に基づく保護増殖事業計画の確認を受けている種数	13種 (5園合計 ^{※4})
	生息地における保全活動や環境学習活動が推進されている	生息域内保全に貢献した活動の実施件数	20件 (4園合計 ^{※2})
取組16	飼育・繁殖・環境学習等の技術継承のための場が用意されている	園内の研究会実施件数	11件
	飼育・繁殖・環境学習等の技術や研究成果が広く公表されている	研究成果の公表件数	30件 ^{※1}
取組17	大学・研究機関との共同研究により新たな知見が得られている	共同研究の実施件数	30件 ^{※1}
	野生動物保全の取組の必要性を広く発信している	講演会・シンポジウムの実施件数	7件
取組18	飼育繁殖に生物工学技術が活用されている	DNA分析、ホルモン測定の実施種数	70種 (5園合計 ^{※4})
	動物園の個体群の維持に生物工学技術が活用されている	配偶子の凍結保存及び使用件数	610件 ^{※1} (5園合計 ^{※4})
取組19	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関とのネットワークが強化されている	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関等との協定締結件数	10件 (4園合計 ^{※2})
	飼育繁殖技術や展示の魅力向上のために、国際的な連携が進んでいる	海外との連携の中で行われた、会議・学会等への参加件数、動物交換、研修などの実施件数	1件
取組20	野生動物保全活動への支援が行われている	(公財)東京動物園協会の野生動物保全基金による年間助成件数	10件 (4園合計 ^{※2})
	動物園が所有する野生動物を研究に活用することで野生動物の保全に貢献している	研究材料の提供件数	8件 ^{※1}

※1 10年目までの累積件数

※2 建設局所管の都立動物園・水族園

※3 新たな取組や、過去の十分な実績値の記録がないなど、現時点で適切な目標値の設定が困難な項目。取組状況を検証した上で目標値を設定する。

※4 建設局及び環境局所管の都立動物園・水族園

5. 教育普及計画

(1) 教育普及計画とは

「目指す姿ごとの方針」の、主に「魅せる」、「伝える」で定めた方針に基づき、どのような環境学習や利用促進などの取組を行うかを定めています。園の特色に沿った園内プログラムや展示を行うために、飼育展示計画で定めた展示コンセプトや取組とも関連する内容とし、両計画を相互に連携するものとして位置付けています。

策定にあたっては、(公財)東京動物園協会が令和2(2020)年1月に策定した教育普及事業方針を踏まえた内容としています。

本計画により、全ての来園者が動物園・水族館に魅力を感じ、楽しみながら野生動物や保全について知ることができる取組の実施を目指します。

(2) 教育普及テーマについて

教育普及計画では、動物園・水族館における教育普及の取組内容に応じて、①～⑩の分類(以下、「教育普及テーマ」という)をし、これら教育普及テーマごとに、取組計画と主な実施項目を記載しています。

教育普及テーマ	
【いつでも楽しく学べる場】	① 定例の教育普及プログラムの強化
	② 動物と間近に接する体験(動物介在教育)の充実
	③ 展示での学びのサポート強化
【誰もが楽しめる場】	④ 集客力のある教育普及プログラムの強化
	⑤ 長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実
	⑥ 誰も取り残さない教育普及活動の推進
【動物の未来を考える場】	⑦ 環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化
【学校での学びをサポートする場】	⑧ 学校向けの動物観察プログラム・キャリアプログラム・各種教材の充実
【多様なネットワークのハブとなる場】	⑨ ボランティアとの協働を推進、地域との連携強化
【情報発信の拠点となる場】	⑩ 多様な情報発信ツールを利用した効果的な情報発信

(3) 園の教育普及コンセプト

井の頭自然文化園の教育普及計画で目指す方針を、以下のとおり「園の教育普及コンセプト」として定めます。

-
- 入門動物園として、直接ふれあう体験だけではなく「多様なふれあい体験」を中心に誰もが楽しく学べる場を提供し、動物と人との関係を豊かにしていきます。
 - 井の頭池や武蔵野の森などの豊かな自然を活用し、日本産の動物をはじめとする身近な動物への理解を深めてもらい、野生動物を守るの一步として保全に貢献します。
 - 彫刻館などの文化施設の利活用を進め、ボランティアや地域との連携を強化しながら、子どもから大人まで楽しみながら学べる多様な展示や教育プログラムを提供します。
 - ポストコロナ社会をみすえ、アニマルウェルフェアや感染症対策に配慮しながら、学校のDX化にも応じた新たな教育活動スタイルを構築します。
-

(4) 教育普及テーマごとの計画 ～取組計画・主な実施項目～

【いつでも楽しく学べる場】

動物園・水族園を訪れる人々がいつでも楽しく学べる場であるために、園内で実施する定例の教育普及プログラムや、動物と間近に接する体験を提供する教育普及活動を強化します。また展示の一部である展示サイン、さらに企画展・特設展、セルフで楽しめるクイズシートなど、プログラム等に参加できない来園者にも常に新たな学びを提供します。

① 定例の教育普及プログラムの強化

▶ 取組計画

来園者がいつ来ても楽しく学べる機会を提供するため、餌のガイドなど定例で実施する教育普及プログラムを強化します。動物だけでなく、園内の植物や彫刻館を活用したガイドも充実させます。

▶ 主な実施項目

- 動物解説員によるガイドツアー
- 学芸員による彫刻ギャラリートーク
- 園内の植物ガイド
- 飼育係のいきものガイド
- みてみてえさの時間だよ（飼育担当者による給餌時のガイド）



学芸員による彫刻ギャラリートーク



動物解説委員によるガイドツアー

② 動物と間近に接する体験（動物介在教育）の充実

▶ 取組計画

モルモットのふれあいコーナーをはじめ、動物を「近い存在」に感じ、大切に思う「心のふれあい」を重視した教育普及プログラムを強化します。実施にあたってはアニマルウェルフェアに配慮し、動物への影響や来園者の学びを科学的にモニタリングすることを前提とします。

▶ 主な実施項目

- モルモットふれあいコーナーでの活動
- ダックさんにお弁当プログラム（餌やりプログラム）
- 「いきもの広場」での活動（野生の生き物観察）

③ 展示での学びのサポート強化

▶ 取組計画

展示での情報発信の基本である展示サインは、「デザインガイドライン」に沿ったものとし、わかりやすさを重視した工夫を施し、常に最新の知見を発信できるようにします。また、定期的に企画展・特設展を開催し、動物や彫刻、文化面も重視した新たな魅力を伝えます。セルフで動物の観察を楽しめるワークシートやクイズシートを充実させます。

▶ 主な実施項目

- 展示種ラベル、解説サインの更新
- 資料館、水生物館特設展
- 彫刻館企画展
- 季節のスタンプラリー
- 彫刻館セルフガイドリーフレット
- 各種ガイドリーフレット（飼育係からのお便り等）



モルモットふれあいコーナー



彫刻館のガイドリーフレット

【誰もが楽しめる場】

動物園・水族園には子どもから大人、障害がある方、訪日外国人など、多様な人々が訪れます。来園した誰もが楽しめる場所であるように、対象と狙いが異なる様々な教育普及プログラムを充実させていきます。また、こうした取組を通じ、より多くの方を呼び込んでいきます。

④ 集客力のある教育普及プログラムの強化

▶取組計画

季節イベントや開園記念日イベントなど、多くの人を対象にした集客力のある教育普及プログラムを強化します。地域に根ざした動物園として、地域との連携を強化しながら何度も訪れたい動物園を目指します。

▶主な実施項目

- 開園記念イベント
- 秋の夜長の自然文化園
- 彫刻館コンサート
- お正月イベント

⑤ 長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実

▶取組計画

子どもを対象にしたシリーズものの教育普及プログラムや、より専門性の高い、希少野生動物の保全や身近な自然環境をテーマにした講演会など、興味関心の高い人々や深く学びたい人向けの教育普及活動を強化します。

▶主な実施項目

- 文化園いきものクラブ（小学生対象）
- 身近ないきもの探検（小学生対象）
- 「水辺のいきもの広場」観察会（小学生対象）
- ズーカレッジ（大学生対象）
- 三鷹ネットワーク大学講演会（一般対象）

⑥ 誰も取り残さない教育普及活動の推進

▶ 取組計画

地域の特別支援学校との連携など、障害がある方も含め誰もが学べる教育普及プログラムを充実させます。

▶ 主な実施項目

- ドリームナイト・アット・ザ・ズー
- 地域の特別支援学校・盲学校等との連携



秋の夜長の自然文化園での特別プログラム
いきものガイド（夜編）



いきもの広場での活動

【動物の未来を考える場】

動物園・水族園は、地球上の動物とわたしたち人が共に生きる未来のために、学び、考え、行動する場です。その入口となる自然体験へつなげるフィールドプログラムを強化するとともに、希少野生動物の保全に貢献する、対象やテーマを工夫した多様な教育普及プログラムを充実させます。

⑦ 環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化

▶ 取組計画

身近な希少野生動物の現状や保全の取組について伝え、それぞれの意識変容や行動につながる教育普及プログラムを充実させます。東京都のズーストック種を活用した情報発信の強化とともに、武蔵野の自然や井の頭池を生かしたフィールドプログラムを充実させます。

▶ 主な実施項目

- ヤマネコ祭、ヤマネコ講演会
- ツシマヤマネコ、小笠原産マイマイなどのガイド
- 身近な水辺の生き物保全講演会
- 保全講演会（都立動物園・水族園合同企画 身近な水辺保全講演会等）
- 生物多様性の日、世界湿地の日の日等での情報発信
- 文化財ウィークでの情報発信



ヤマネコ祭における保全活動取組紹介ブース



身近な水辺保全講演会
(世界湿地の日の活動)

【学校での学びをサポートする場】

学校教育との連携は、動物園・水族園の大切な取組の一つです。幼児から大学生まで年齢や学年に沿った体系的な教育普及プログラムを充実させ、学校教育との連携を強化します。

⑧ 学校向けの動物観察プログラム・キャリアプログラム・各種教材の充実

▶ 取組計画

学校団体向けの年齢・学年に沿った内容での動物観察プログラム、特に幼児から小学校低学年を対象にしたものを充実させ、動物園・水族園での学びをサポートします。また中高生向けのキャリア教育や専門・大学生向けの実習等を継続し、環境学習の担い手の育成に貢献します。

さらに学校の授業に役立つ多様な教材の開発や教員向けのセミナーを実施し、学校での理科教育・生物教育に協力します。

▶ 主な実施項目

- 動物観察や保全等をテーマにした団体向けプログラム
- 職場体験・職場訪問・インターンシップ等のキャリア教育支援プログラム
- 博物館実習・飼育実習等の受け入れ
- 授業に活かせる「動物園・水族園」講座（教員）
- 貸出教材
- 出張授業



動物解説員による
学校団体解説プログラムの実施



博物館実習（来園者利用調査の様子）

【多様なネットワークのハブとなる場】

ボランティアとの協働を推進するとともに、動物園・水族園が中心となって様々な教育・文化施設、または鉄道事業者など周辺の施設や、企業との連携を強め、効果的な教育普及活動を推進します。

⑨ ボランティアとの協働を推進、地域との連携強化

▶ 取組計画

教育普及活動の重要な担い手であるボランティアとの協働を推進し、園内での教育普及活動を充実させます。また、武蔵野市・三鷹市の2市にまたがる立地を生かし、地域の方々や組織とのネットワークをつくり、このネットワークを生かした取組を強化します。

▶ 主な実施項目

- 地元自治体との連携（地元開催イベント等への参加）
- 美術館等周辺施設との連携
- 周辺商業施設との連携
- Visit Zoo 事業
- 東京動物園ボランティアズによる園内ガイド
- 東京動物園ボランティアズとの研修・連絡会の開催



地元のお店が集まったマルシェを
井の頭自然文化園で開催



東京動物園ボランティアズによる
スポットガイドガイド

【情報発信の拠点となる場】

動物園・水族園は、動物や自然環境に関連する情報発信の拠点として、多様な情報発信ツールを活用し、効果的な情報発信を行います。

⑩ 多様な情報発信ツールを利用した効果的な情報発信

▶ 取組計画

ホームページや機関誌での情報発信とともに、SNS 等のツールを効果的に利用し、動物や自然環境に関する情報や動物園・水族園の取組を積極的に発信します。また、地元駅の広告スペースやミニコミ誌、ケーブルテレビ等、地域に根差した媒体による PR も積極的に行います。

▶ 主な実施項目

- ホームページ（東京ズーネット）での情報発信
- マスコミを通じた広報活動
- プレスリリースや取材対応
- Twitter での情報発信
- YouTube での情報発信（花ごよみなど）



オンラインを活用した観察プログラム
（おうちで身近ないきものかんさつ）



開園 80 周年ラッピングバス

本計画に該当する確認指標・具体的な確認項目及び目標値一覧

	確認指標	具体的な確認項目	10年目目標値 (令和12年度)
取組1 (再掲)	来園者の視点で常設展示や施設の魅力が向上した	展示改善の実施件数	110件 ^{※1}
	魅力的なプログラム、イベントが開催されている	利用者アンケートの調査結果	3.3
取組2 (再掲)	多くの来園者が魅力を感じて訪れる施設になっている	年間来園者数	700万人 (4園合計 ^{※2})
	多様な来園者を呼び込む取組がなされている	Twitter投稿件数	— ^{※3}
取組3 (再掲)	誰もが快適に観覧できる環境を提供している	快適環境に向けた園内施設の維持管理実施件数	700件 ^{※1}
	来園者が満足している	利用者アンケートの調査結果	3.6
取組4 (再掲)	地域への動物関連情報の提供が行われている	他団体との連携企画、地域イベント等の実施件数	20件
	自治体等の地域と連携した取組が進んでいる	地元警察・消防と連携して行った訓練の実施件数	2件
取組5 (再掲)	多くの方に積極的に都立動物園や野生動物の情報を発信している	東京ズーネット投稿件数	100件
	園内外でICTなどの先端技術を活用した情報発信がされている	動画新規配信件数（ズーネットBB、YouTubeチャンネル）	1800件 ^{※1} (4園合計 ^{※2})
取組6 (再掲)	飼育職員による情報発信が強化されている	キーバーストークの実施件数	70件
	動物園を案内するガイドツアーのプログラムが充実している	ガイドツアーの実施件数	110件
取組7 (再掲)	動物をテーマにした特設展・企画展が充実している	特設展・企画展の実施件数	10件
	東京都(伊豆諸島・小笠原諸島含む)に分布する野生動物に関する情報発信が強化されている	東京都に分布する野生動物植物に関するズーネット投稿件数	110件 ^{※1} (4園合計 ^{※2})
取組8 (再掲)	園外のフィールドにおいて動物の魅力を伝えるプログラムを実施し、身近な野生動物への理解を促している	フィールドプログラムの実施件数	4件
	来園が困難な方などへの環境学習プログラムが充実している	団体プログラムの実施件数及び葛西臨海水族園の移動水族館の実施回数	15件
取組9 (再掲)	将来の保全の担い手となりうる人材を育成している	教員セミナーの実施件数	4件
	教育的な効果が高い団体指導プログラムを実施している	学校団体向けプログラムの実施件数	120件
取組10 (再掲)	ボランティアの育成が進んでいる	ボランティア対象の研修会の実施件数	4件
	ボランティアとの協働による教育活動が行われている	ボランティアによる教育活動の実施件数	180件
取組11 (再掲)	希少種の飼育管理を適正に行い、繁殖が推進されている	国内外血統登録対象の繁殖種数	11種 ^{※1}
	多様な種を飼育し、飼育個体の情報を適正に管理している	国内外血統登録対象の飼育種数	23種
取組13 (再掲)	ズーストック種の繁殖が進んでいる	ズーストック計画で計画どおり繁殖に成功した種数	124種 ^{※1}
	ズーストック計画に基づき対象種が適切に維持管理されている	ズーストック種における「飼育繁殖」「保全情報」「普及啓発」の分野において、適切に推進されている取組数	378 ^{※1}
取組14 (再掲)	管理技術の向上により、動物を安全かつ健康的に飼育する環境が整っている	ハズバンドリトレーニングの到達度	— ^{※3}
	飼育動物の選択肢を増やし、正常な行動を引き出し、健康的に飼育する取組が進んでいる	展示施設におけるエンリッチメントの取組件数	— ^{※3}
取組17 (再掲)	大学・研究機関との共同研究により新たな知見が得られている	共同研究の実施件数	30件 ^{※1}
	野生動物保全の取組の必要性を広く発信している	講演会・シンポジウムの実施件数	7件
取組19 (再掲)	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関とのネットワークが強化されている	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関等との協定締結件数	10件 (4園合計 ^{※2})
	飼育繁殖技術や展示の魅力向上のために、国際的な連携が進んでいる	海外との連携の中で行われた、会議・学会等への参加件数、動物交換、研修などの実施件数	1件

※1 10年目までの累積件数

※2 建設局所管の都立動物園・水族園

※3 新たな取組や、過去の十分な実績値の記録がないなど、現時点で適切な目標値の設定が困難な項目。取組状況を検証した上で目標値を設定する。